

炎症性皮膚科疾患・炎症性耳鼻科疾患の発生・病態に関

わる鼻汁・唾液の解析

今回、京都府立医科大学皮膚科では、炎症性皮膚疾患、炎症性耳鼻科疾患の患者さんを対象に鼻汁・唾液の解析に関する臨床研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

炎症性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎、薬疹、蕁麻疹など）では皮膚組織に好酸球が増えることが知られています。炎症性耳鼻科疾患（好酸球性中耳炎、アレルギー皮膚炎、好酸球性副鼻腔炎、好酸球増多症、線維索性唾液管炎など）においては耳下腺・唾液腺や鼻汁・唾液に好酸球が増えることが知られています。

しかし何故、皮膚組織や耳下腺・唾液腺に好酸球が多く出るのかについてはまだ病態が良く分かっていません。

今回皮膚科学教室では炎症性の皮膚科疾患や耳鼻科疾患の病気の原因などに唾液や鼻汁がどのように関わっているのかを解明することを目的として、この研究を計画しました。この研究を行うことにより今後病気の診断として簡便に採取できる鼻汁や唾液を使用して診断に繋がる可能性、また病態に関わる分子などが解明される可能性があります。

研究の方法

・対象となる方について

2000年1月1日から2019年12月31日までの間に、炎症性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎、薬疹、蕁麻疹など）炎症性耳鼻科疾患（好酸球性中耳炎、アレルギー皮膚炎、好酸球性副鼻腔炎、好酸球増多症、線維索性唾液管炎など）の診療を受けられた患者様が対象となります。

皮膚腫瘍および耳鼻科疾患の腫瘍の生検・手術の際に得られる病理組織検体の中に一部含まれる正常組織を対照組織として用いるため、皮膚腫瘍の診療を受けられた患者様も対象となります。

・研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から2029年3月31日

・方法

病理医による病理診断がすでに終了した病理検体を使用します。したがって、本研究に参加することによって新しく生検をしない必要はありません。

病理組織切片は共同研究機関である国立国際医療センター、広島大学皮膚科、佐賀大学医学部分子生命科学、秋田大学大学院医学系研究科総合診療・検査診断学講座にて共同で解析するため、あなたの検体を送付する場合があります。その際、あなたの検査データはお名前・個人情報などの情報がわからないような形にして送付します。

・個人情報の取り扱いについて

情報はすべて名前などの個人情報を削除し、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

・研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 医療フロンティア展開学 教授 加藤 則人

研究代表者

京都府立医科大学 皮膚科学教室 講師 丸山 彩乃

共同研究機関

国立国際医療センター 准教授 進藤英雄、研究員 橋立智美

広島大学皮膚科 教授 秀道広

佐賀大学医学部分子生命科学 教授 出原賢治、准教授 布村聡

秋田大学大学院医学系研究科総合診療・検査診断学講座 教授 植木重治

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、2029年3月31日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学 皮膚科

講師・丸山 彩乃

電話：075-251-5586